



あの日の夜の

if

~side Y~

Victor Nikiforov × Yuri Katsuki





あの日の夜の

if

~side V~

Victor Nikiforov x Yuri Katsuki





あの日の夜の

if

~side Y~

Victor Nikiforov x Yuri Katsuki



あの日の夜の

if

~side V~

Victor Nikiforov x Yuri Katsuki





あの日の夜の
if

~side V~

Victor Nikiforov × Yuri Katsuki





彼はいつも

終わりにしよう



俺をびっくりさせる

おどろいたな

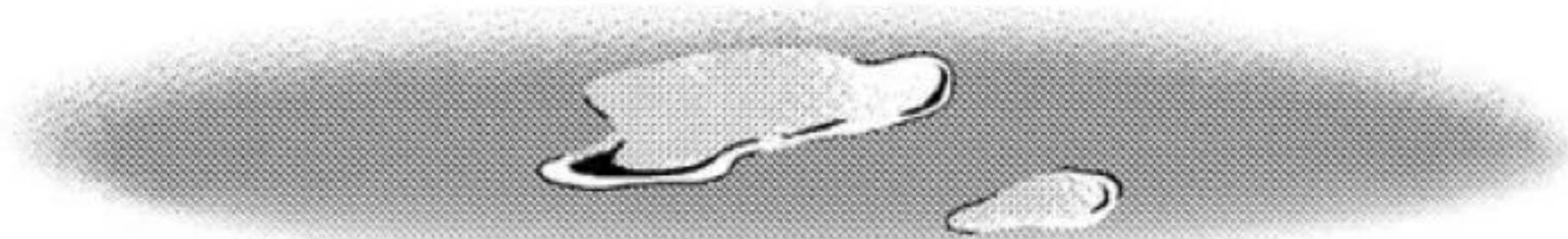


久しぶりに
自分の涙を見た



この感情が
何なのか
正直自分でも
よく分からない

こういう時に
何て答えればいいのか
今までの
自分のどこにも
正解が見当たらない



でも――！

勇利の決めたことを
絶対信じるって
言っただのは誰だ？



俺もまた
氷の上に
戻るだけだよ

勇利もそれを
望んでる



笑顔の前に
貼り付けものは
得意なはずだよ？



「服に一緒に金メダル取ろう」





そう一言、

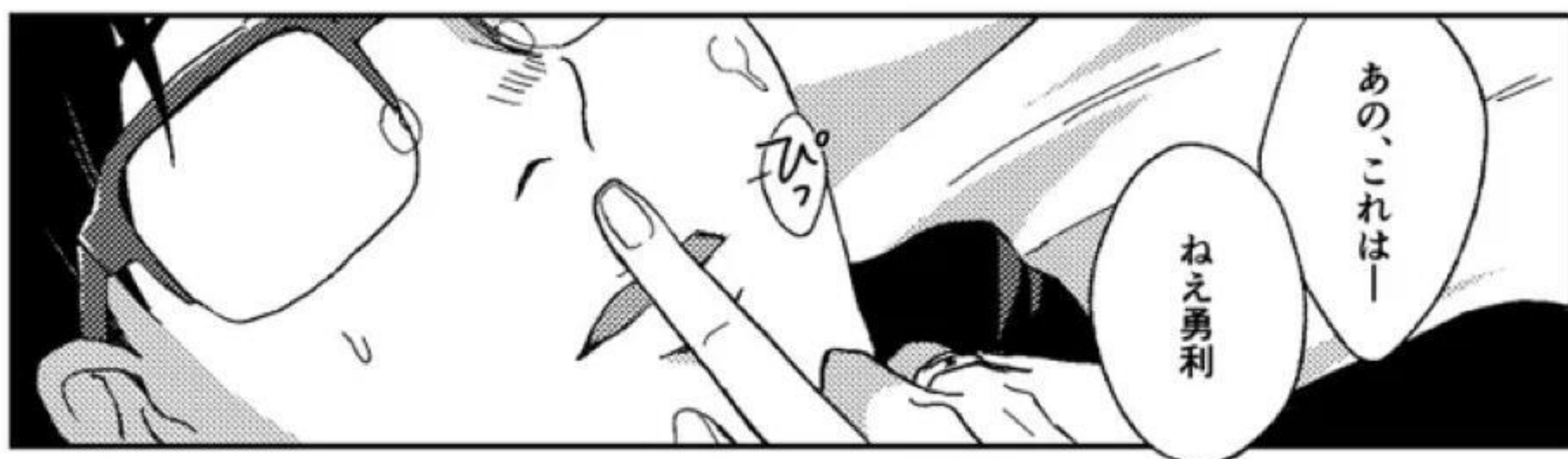
勇利の背中を
押しあげれば
いいだけじゃないか……

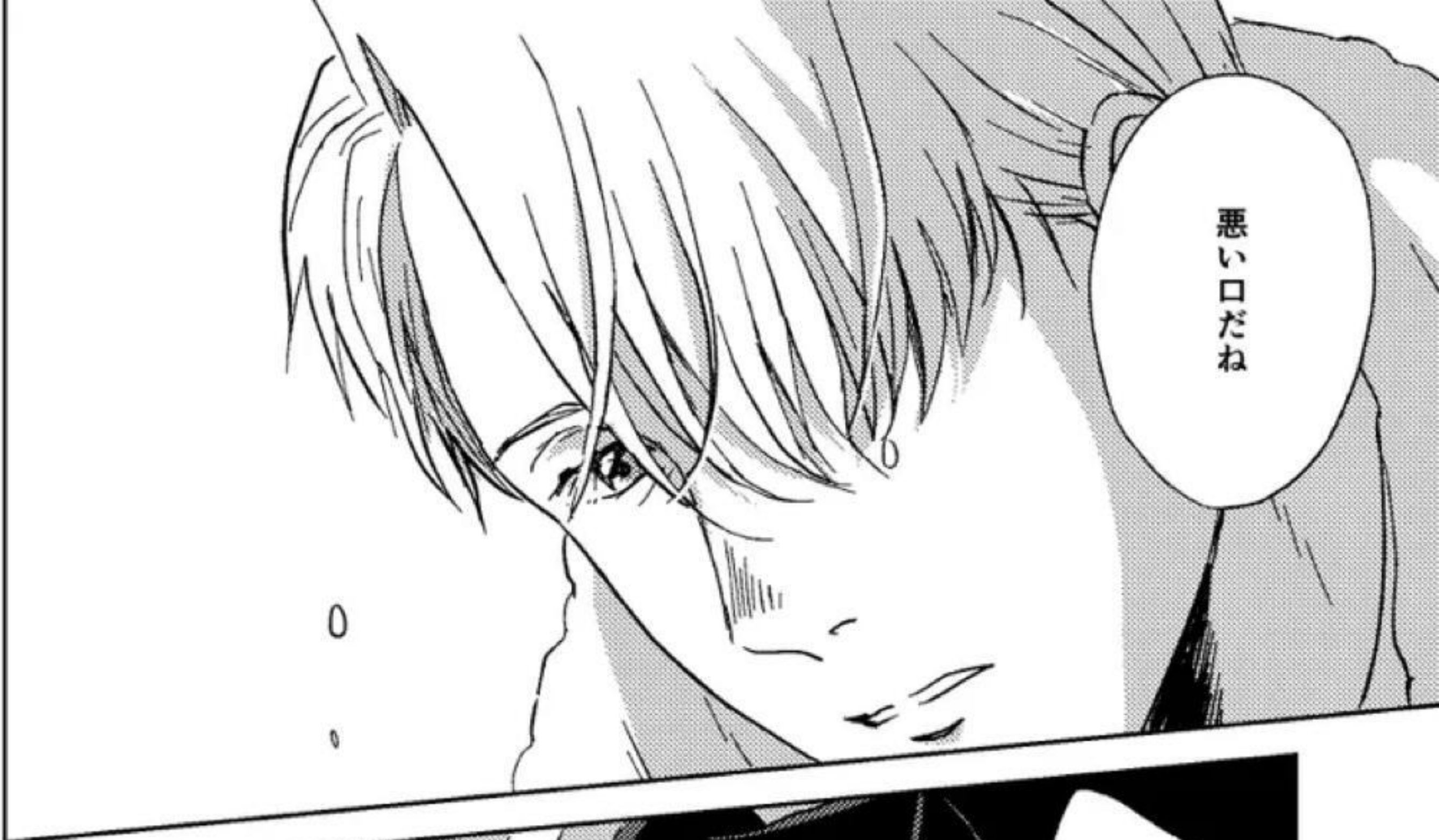
ヴィクトル……？

今回の話は「終わりにしよう」を時間軸にした
前回の～side Y～のバラレル初夜です。
どちらもあくまで初夜なのでそれぞれ単独の
げストーリーとして描いていますが、
前回の続きとしても読めるかなとも思います。
どう読むかは貴方の妄想にお任せします！！

Please read as you like!!!

- ・攻→受のオーラル行為の描写があります。
- ・話の展開の都合上なし崩し的に性行為に及びますがハビエンです。





悪い口だね



そ、それは…



!





そんな訳あるか



本気だよ



勇利は勝手すぎるよ
相談もなしに全部
一人で決めるなんて

俺はコーチとして
そんなに頼りない？



そんなの…
さっきも
言ったけど！

最初に
グラブプリファイナル
までって言ったのは
ヴィクトルの方だろ



ねえ
ヴィクトルらしくないよ

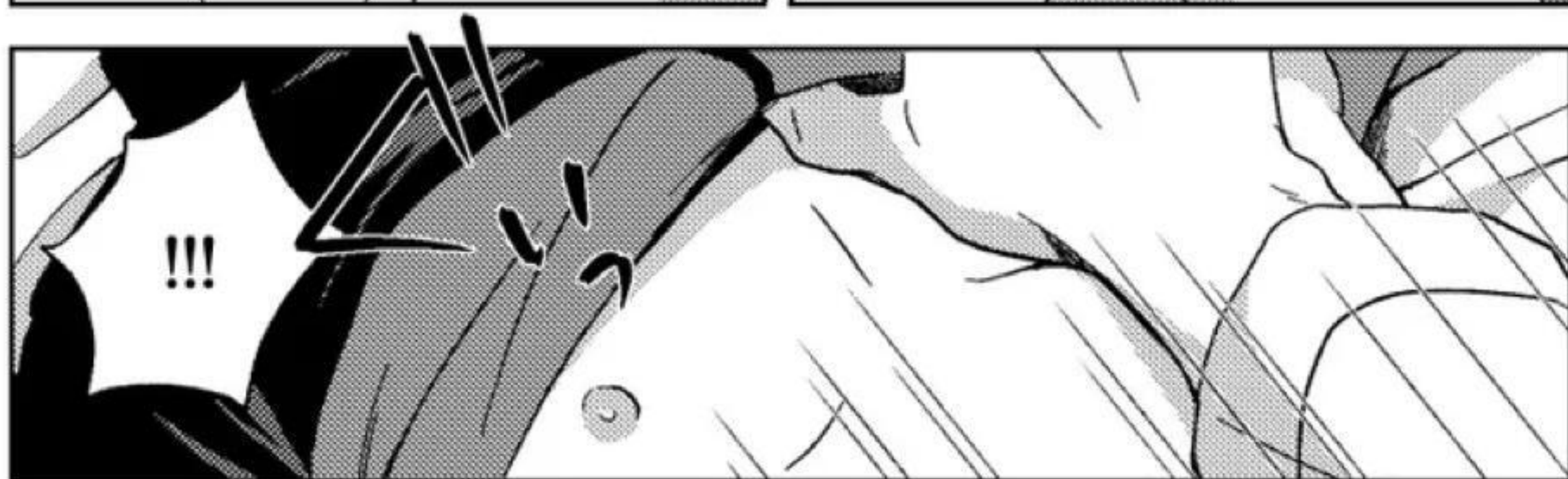
どうしちゃったんだよ

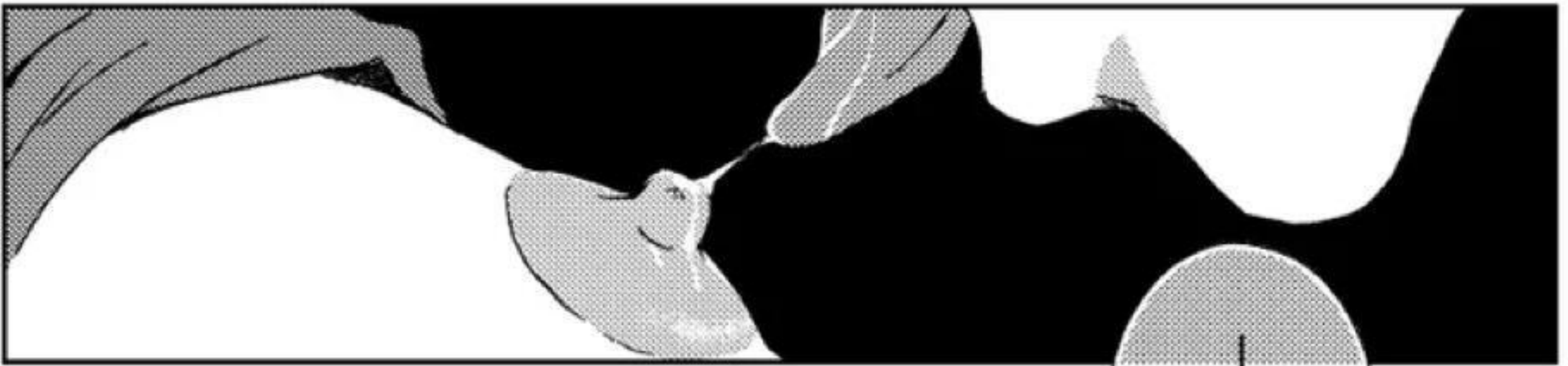
もしかして…

今までもこうやって
女の人を
引き止めてきたの？

——ちがう!!!







ヴィクトルの…

好きにしてよ……

……





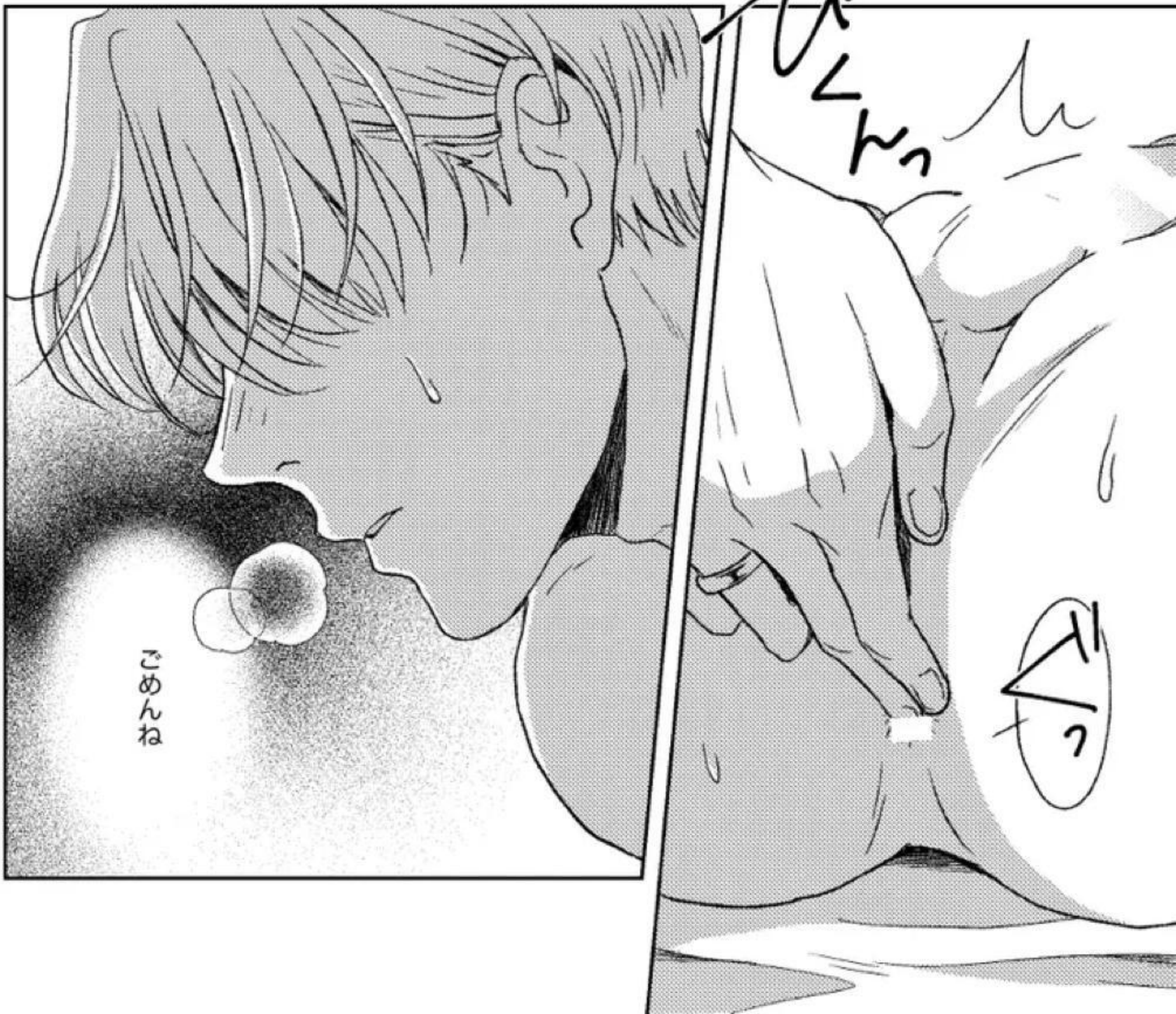






どうすれば
良かったのかな――

勇利

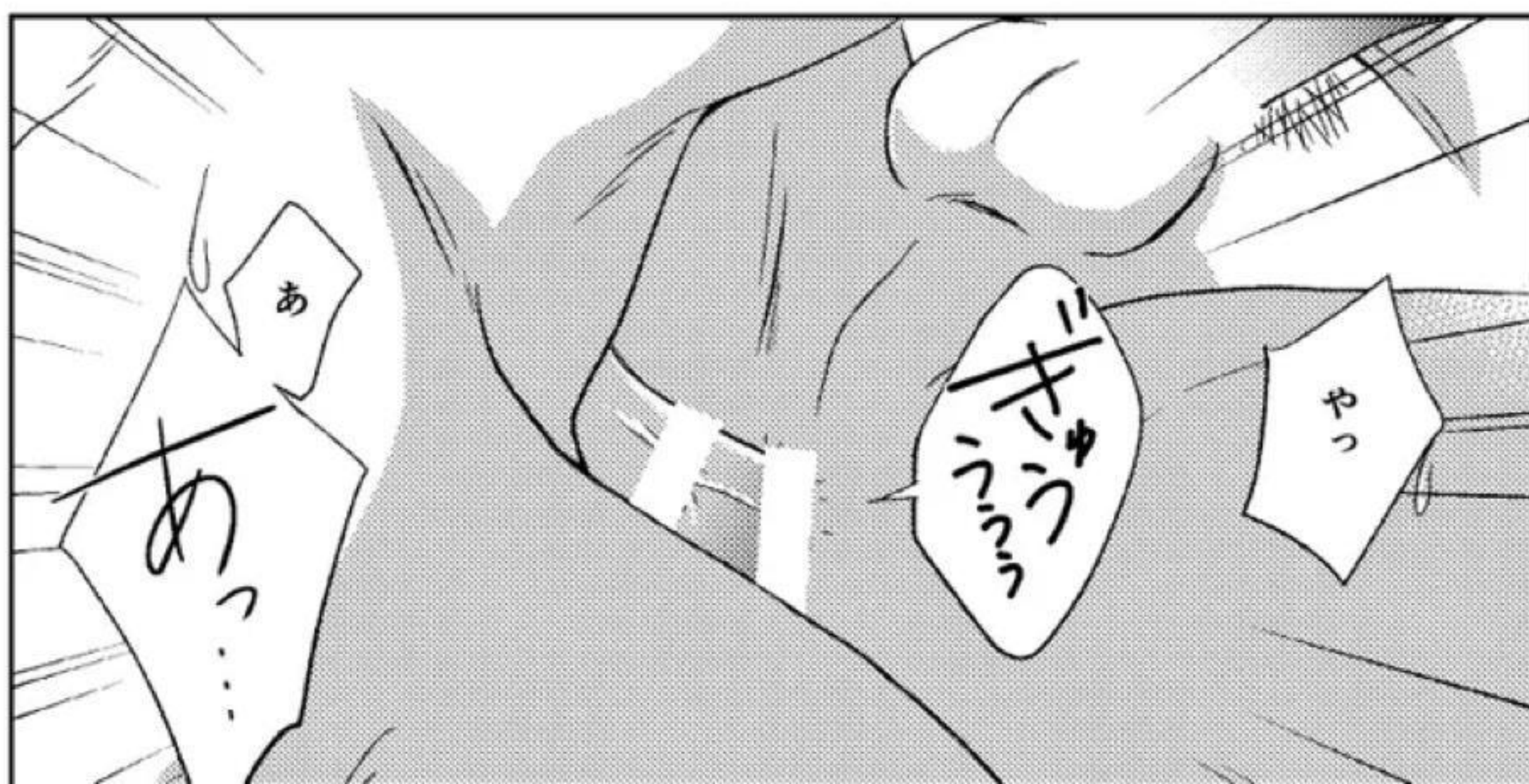




もう
こんなことでは



ごめん









ねえ

離れずに

そばにいたいよ……



ゆ...勇利
あの、身体は—

...

むく

シャワー...
してくる

...ねえ、



ヴィクトルの
「つながり」って
こんなことだったの？



勇利

ああ そうだ

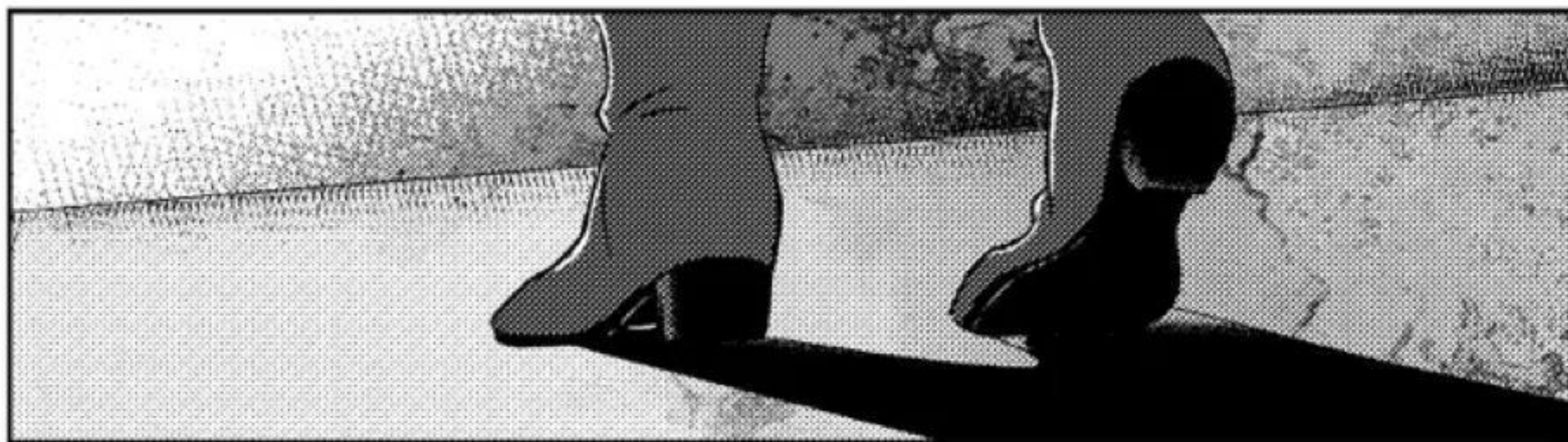
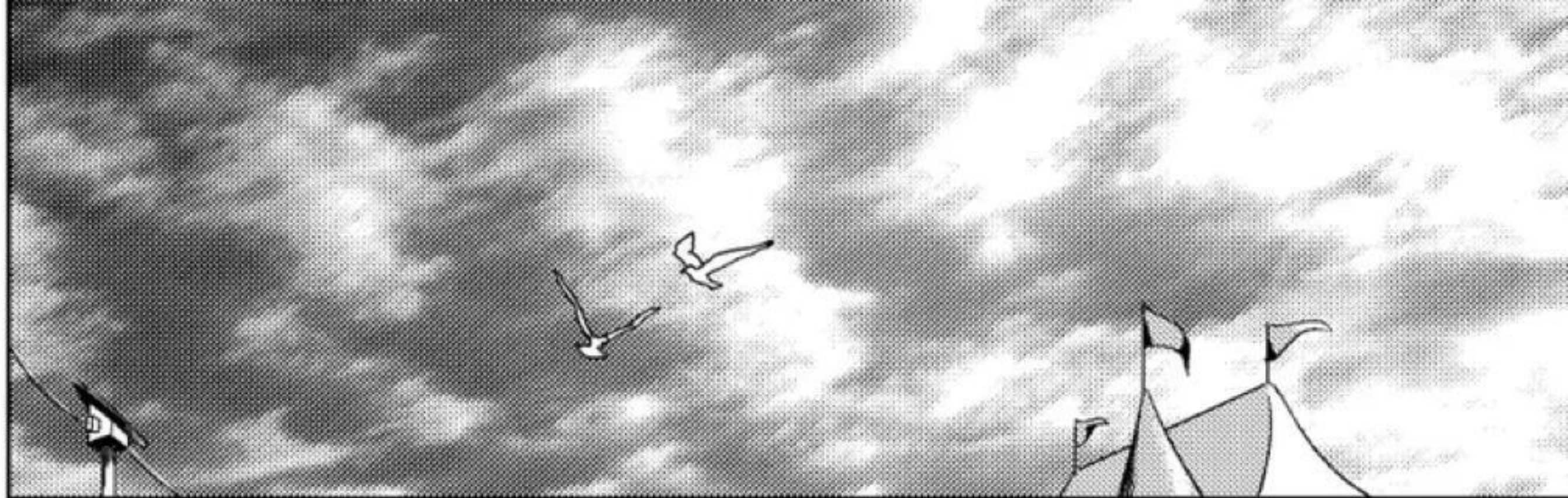
ぜんぶ、
スケートで返すから

君の愛はいつも
まっすぐ氷の上に
向けられていて

ヴィクトルだって
見たいでしょ!?
僕が四回転フリップ
降りたところ!

そうやって
俺をつなぎとめようと
してくれてたのに

こんな――…





俺は

バカだなあ



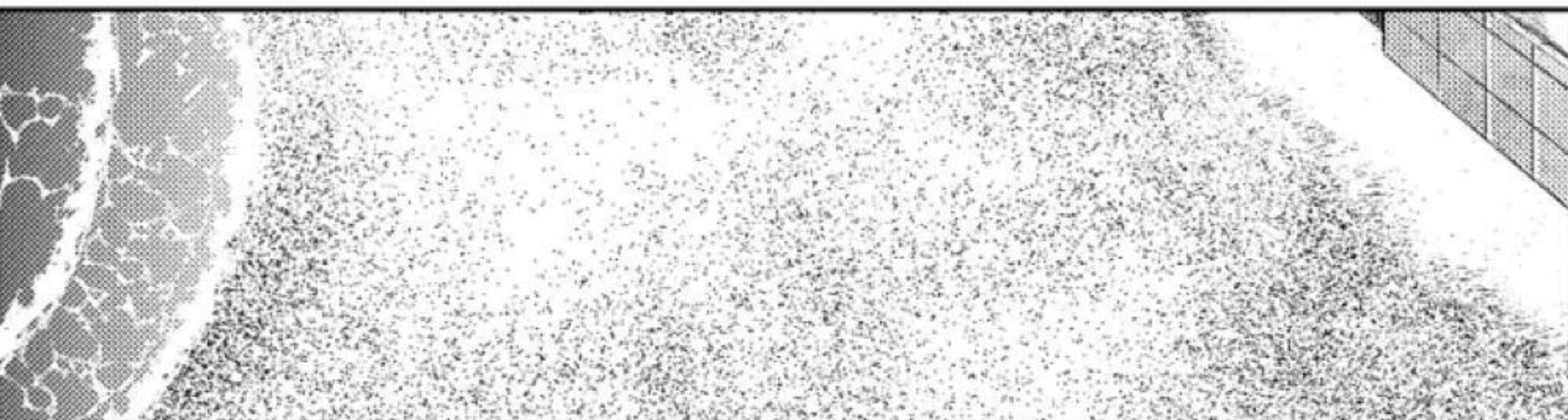
う...ん

も...ぞ



ヴィクトル？











え？

昨日の夜、
ヴィクトル
普通じゃなかったから!!

あんな…

朝
目が覚めたら
いないし

思い詰めて身でも
投げてたら
どうしようかって

…まさか

勇利が金メダル
取るまでは
死ねないよ

…それって
僕に金メダル
取るなってこと？

いや
そういう訳じゃ—

……





まあ…

相手が
僕じゃなかったらね

え

とりあえず
頭上げてよ

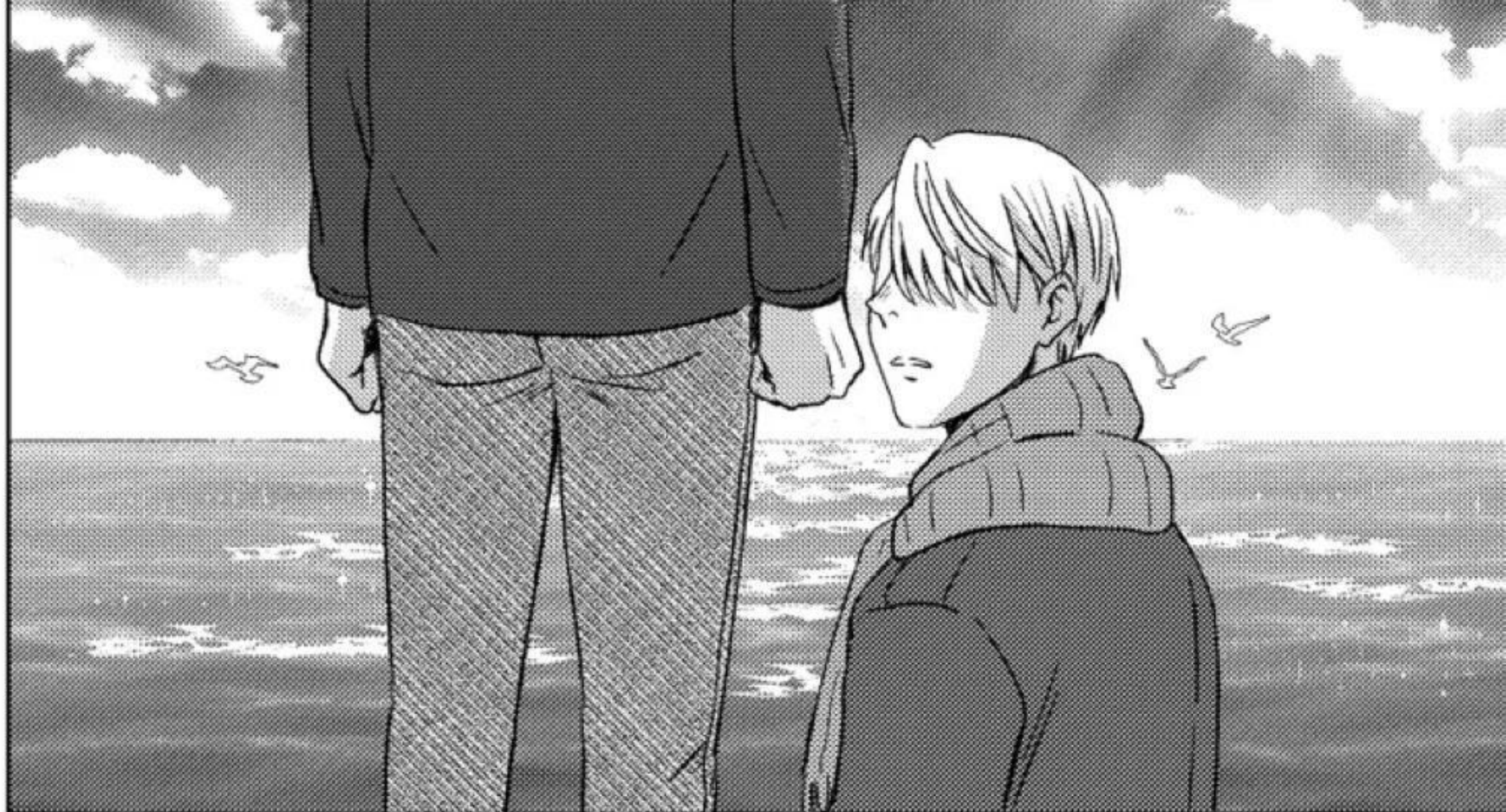
許すとか
許さないとか

そういうのは
僕も整理がつかない

ただ

今のあなたには
あれこれ決める
権利なんてない





襲われたのは
また別の話だけど

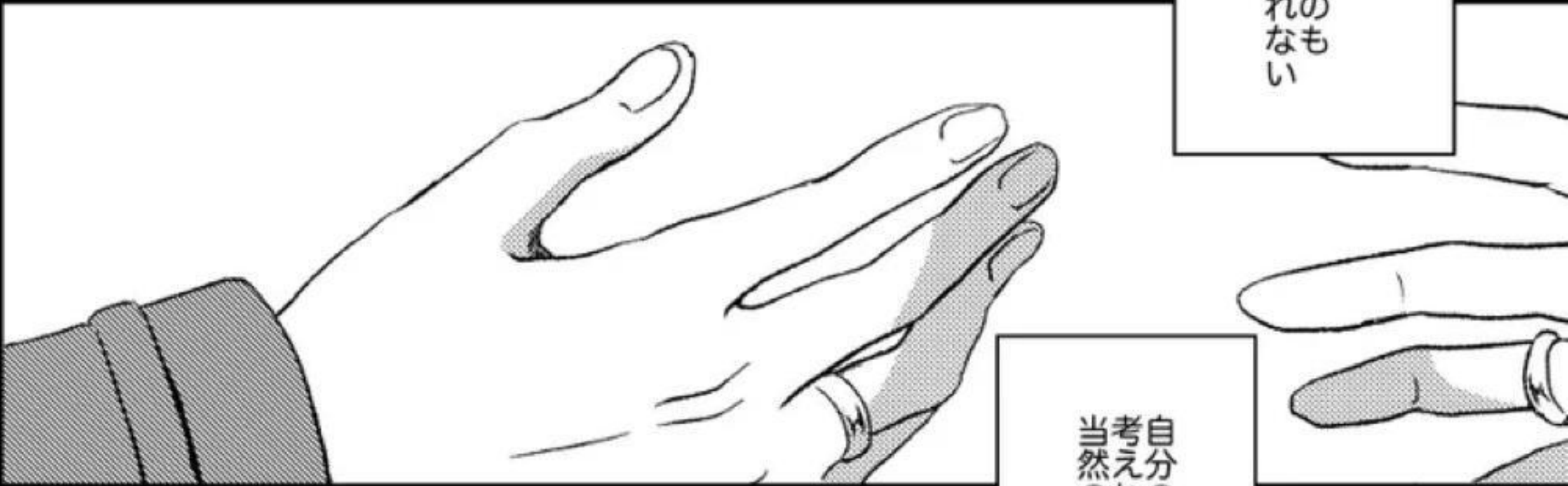
しゅっ

怒ってるからね、僕

そうして
俺と勇利はほとんど
口をきかないまま――



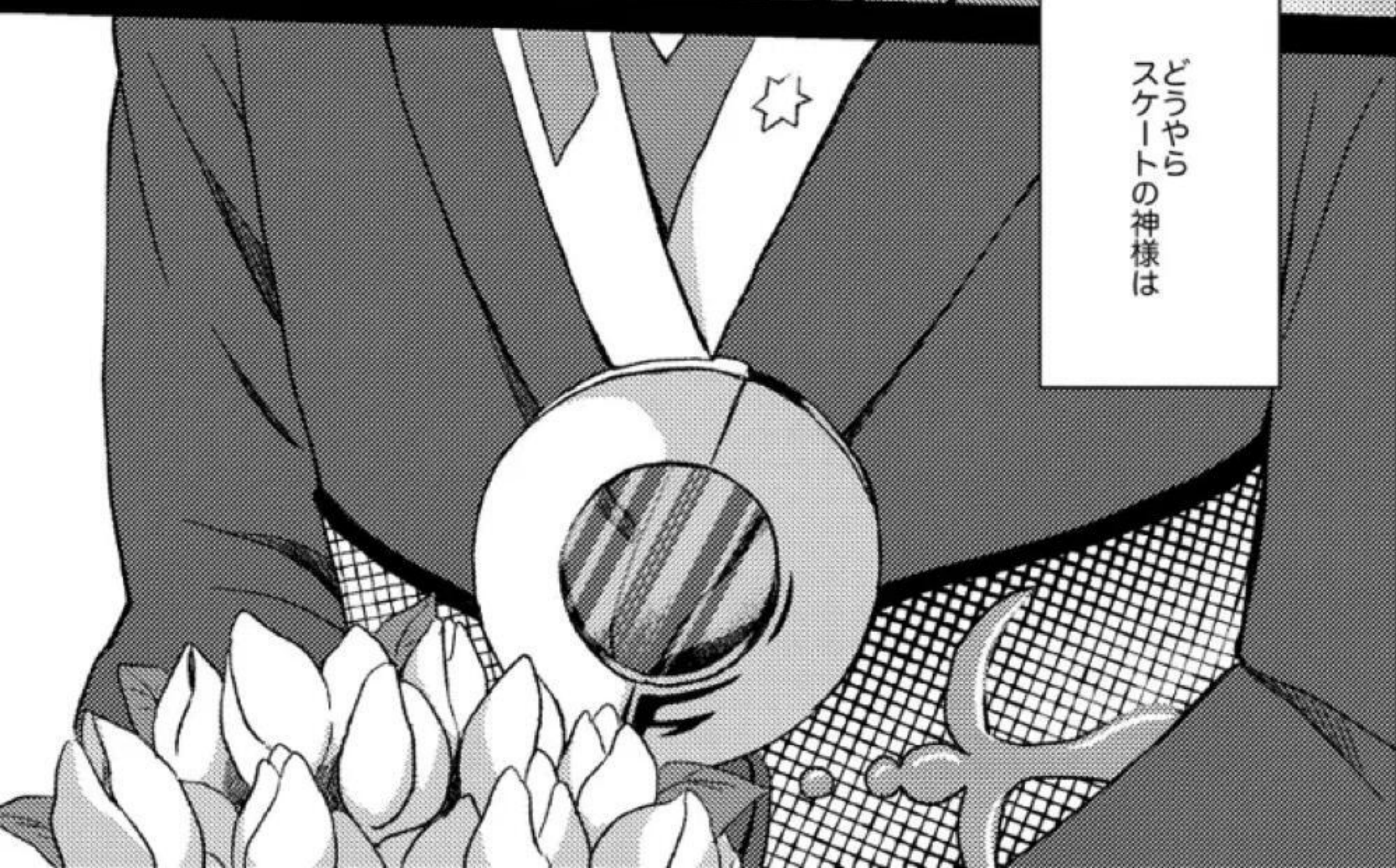
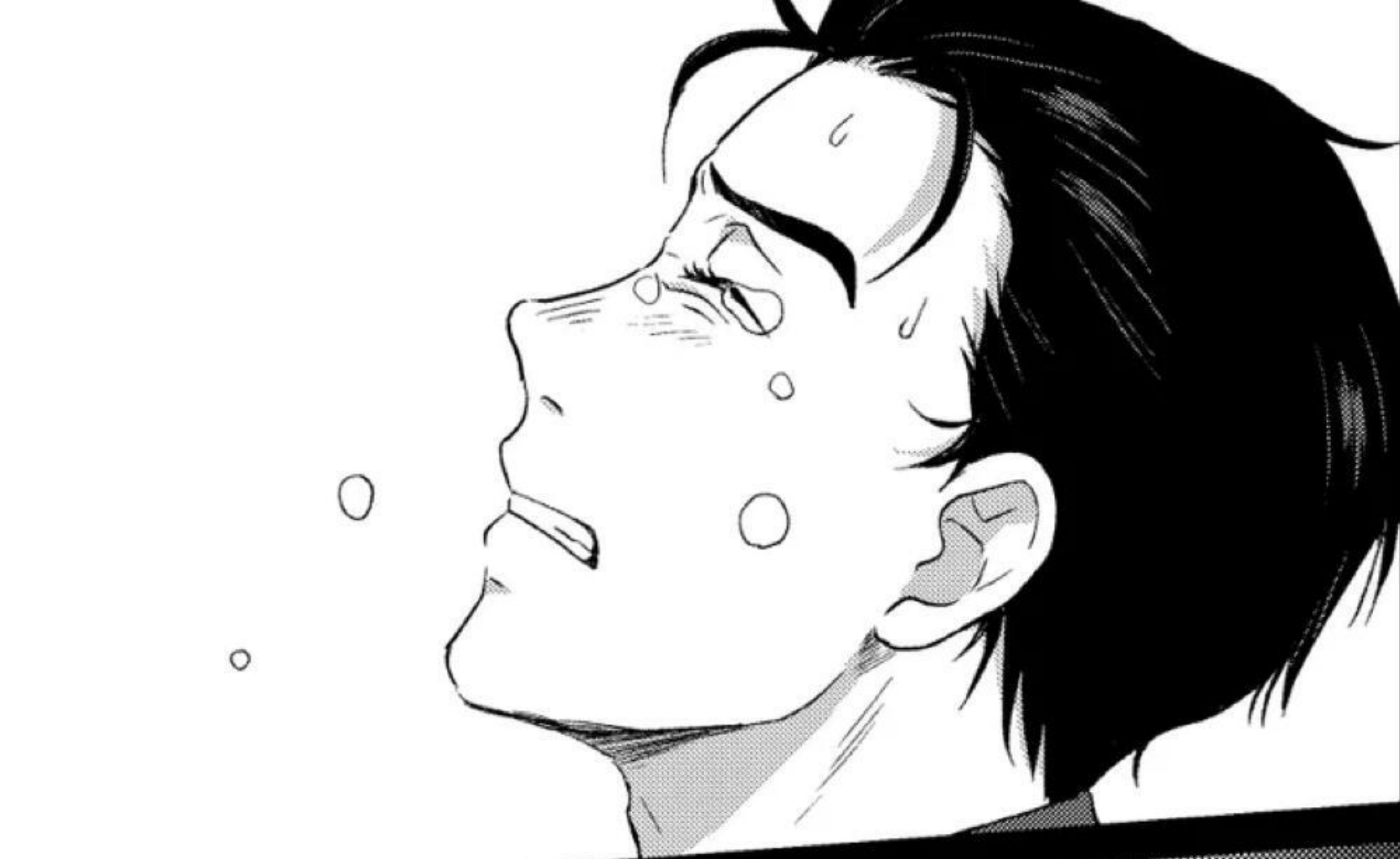
このまま
終わってしまうの
かもしれない
天罰なの



自分のしたことを
考えればそれも
当然の報いだ



だけど



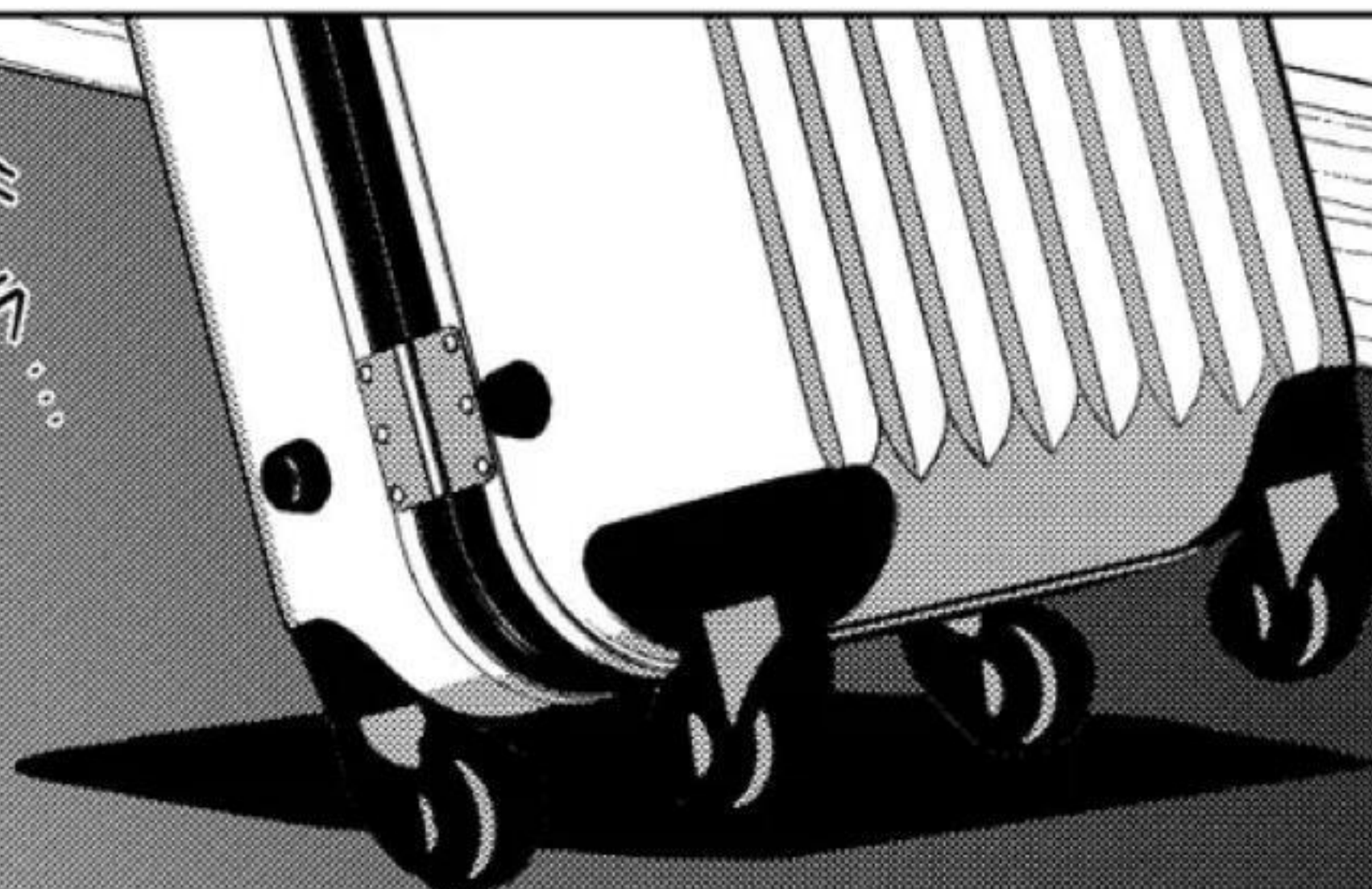
どうやら
スケートの神様は

もう少し俺たちに

猶予をくれるらしかった



ダ
ラガ
ラ...



あ、勇利
俺は別の部屋取ったから
荷物回収して部屋移るよ

え？

パタン

スイートしか
空いてなかったん
だけどね

そうだ、
良かったら
勇利がスイートの方
泊まる？

銀太の
ほうび

へ...？

これからも勇利と
スケートを続けていく上で
二度とあんな間違いはしない

神に誓ったんだ

だから
はじめを――



初めて
だったんだよ

セックス…

ポ
タ
ポ
タ

それなのに…

世界で一番
好きな人に
謝られながら…

涙流されながら
抱かれたんだよ？

ねえ

僕がどれだけ
みじめだったか
分かってる？

…

僕はバルセロナの夜を
あんな思い出のままだに
しときたくない

だから

その、ちゃんと…

えっと…

あ…あの！

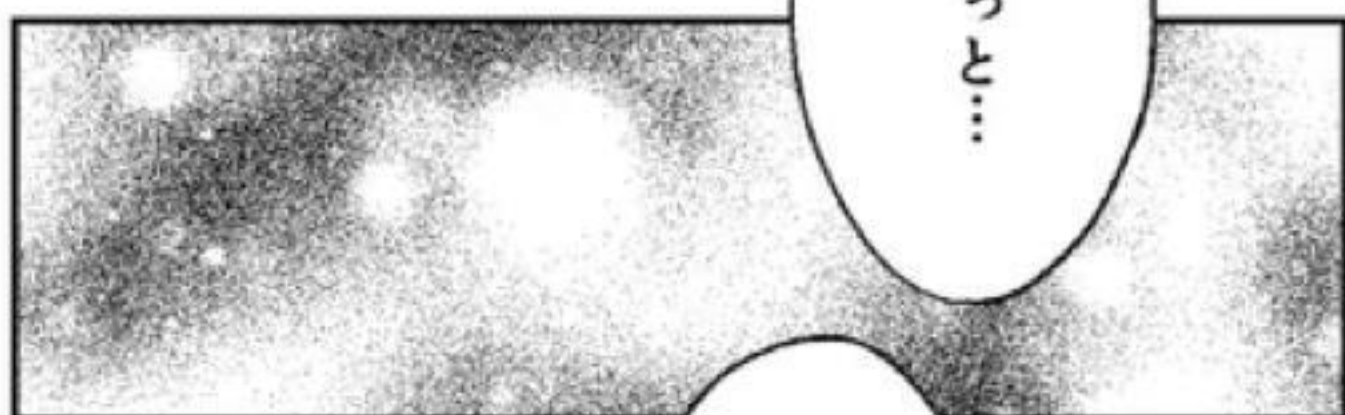
昨日の
気の迷いが
なかったら

もう一回…

あ、ちゃんと
優しくして
くれなきゃ
いやだけど

あと朝どっかに
いなくなっちゃってる
のもいやだ

……



本当にこの口からは
何かが飛び出してくるか



こうやって
子息もいない方向に
ひたすらイマジネーションを
ひたすら返してあげる



やっぱり君は

な…なんで
ヴィクトルが
泣くんだよ！

はは…

俺をびっくりさせる天才だった――

We certainly know they will be on the ice
after spending the sweetest night, don't we?

~side V~